

◆第1報告

【報告タイトル】

オルタナティブな農業実践に向けた外国人技能実習生との協同労働
—「百姓」らしい受け入れを模索する地域協同組合を事例に—

【報告者】

二階堂裕子（ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科）

【報告要旨】

農業や農村の持続可能性が危ぶまれる今日、外国人技能実習生の受け入れに活路を見出そうとする動きが進んでいる。けれども、技能実習生をめぐる問題も少なくない。他方で、従来の方法とは異なる農業実践を通じて、環境保全や農村社会の再生に取り組み、働き方や暮らし方を見直そうとする試みも広がっている。

本報告では、こうした社会動向をふまえて、1970年代より経済優先主義に異議を唱え、有機農法の実践や産地直送システムの構築を進めてきた愛媛県内の農業者たちによる活動を取り上げる。このX地域協同組合は、1990年代から新規就農希望の若者を、そして2000年代以降は海外から技能実習生を受け入れている。これによって、第一次産業の継承を図り、農村コミュニティ・ビジネスを展開してきた。

本報告では、こうしたX地域協同組合による自立したむらづくりへの道筋と、外国人技能実習制度の活用の関連を検討する。そのうえで、技能実習生受け入れのあり方について考察を加えたい。

◆第2報告

【報告タイトル】

中国における非正規労働者の実証研究

【報告者】

王雪菲（早稲田大学大学院人間科学研究科）

【報告要旨】

中国は1978年改革開放の路線を展開して以来、構造調整をめぐって国家による経済統制の緩和が進行しており、短期間ですさまじい経済成長を実現したにもかかわらず、市場経済化に伴う不可避な問題も続出し、非正規労働はその一例である。

本報告は、日本の非正規労働者分類に基き、計量方法によって中国の非正規労働を考察する。具体的には、従来の研究における自営業者・家族従業者の要素を排除するため、橋本健二の階級分類を参考にし、2013年と2015年のCGSS（中国総合社会調査）調査データを用いて非正規労働者の実態を捉え、また非正規労働者になる要因についてロジスティック回帰を行い、説明変数には個人的属性（性別、年齢、教育年数、仕事年数、結婚状況、戸籍など）、経済部門の特徴、卒業コーホートを投入して分析する。その結果、人的資本や戸籍による影響が明らかに現れており、また非正規就業は職業部門によって大きく左右されていると示している。